

第3回 SPARC Japan セミナー2014

「オープン世代」の Science

開会/概要説明

土出 郁子

(大阪大学附属図書館)



土出 郁子

大阪大学附属図書館勤務。SPARC Open Access Program Adviser。国内外の大学図書館・機関リポジトリコミュニティにおいて、オープンアクセスに関する活動に携わる。2008-2010年、大阪大学機関リポジトリ担当。2009-2012年、デジタルリポジトリ連合（DRF）国際連携ワーキンググループメンバー、2010-2012年、COAR Support & Training ワーキンググループメンバー。

皆さま、今日はようこそお集まりくださいました。この1週間は、アメリカのSPARCという学術情報流通を考える団体が国際的に設定しているオープンアクセスウィークです。「オープンアクセス」をキーワードに、いろいろなイベントで盛り上がりましょうという日で、このSPARC Japan セミナーもその一環として開催することとなりました。オープンアクセスウィークは、2009年にアメリカのSPARCが学生と一緒に立ち上げた活動で、毎年テーマが決まっています。今年のテーマは「Generation Open（オープン世代）」で、若いキャリアの研究者や学生に焦点を当て、その人たちとオープンアクセスを考えましょうというものです。

オープンアクセスでは、従来からの研究成果をもっと公開していこうという話から、論文の公開性をどのように高めて、その研究が世の中に出やすくするかということを趣旨として活動が行われてきたかと思えます。ただ、今回のテーマである「オープン世代」を考えたときに、今までは、コンテンツをいかに出すか、論文のコストを誰が担うかという話をずっとしてきてはいたのですが、現実の研究世界ではそういうところ

をもう飛び越えてしまっているのではないかとということが一つあります。ウェブがベースにあって、同じようなことに興味・関心を持つ不特定多数の人たちと常に対話があったり、何か面白いものができたらそれを世の中に出しているいろいろな評価を受けたり、それはこうしたらもっと面白いのではないかと広がっていくなど、成果だけではなく、プロセス自体の共有が始まっていて、成果自身も、ジャーナルというプラットフォームだけではないところでいろいろな形で広く出ている現状があります。私は図書館員なので、ずっと大学図書館員の立場で仕事もしてまいりましたし、研究成果をジャーナルに載せて、それをどう出すかという話にも関わってきましたが、それ以外のところでは何が起きているのかということに一つ関心があります。

従来より、在野の研究者の方が活躍されている天文学や、情報科学などでオープンソースが旨とされているような学問分野はありましたが、今ではそれがさらに広がり、例えば生命科学のような分野と人文科学が近接し、融合して、新たな発展をしています。アプローチが違うだけで取り組んでいる問題は同じだという

ことや、あるいは、従来は大きな機関の中で予算を大きく取ってビッグサイエンスという形で進んできたものが、もっと手前のプロセスから共有されて少ない人数で研究が始まっているということがあります。従来のプラットフォーム、流通の担い手であった図書館、学会、出版社は、それらに対しては今まであまりきちんと目を向けてこられなかったというか、定型の仕事ではその部分は明らかに範疇外であったと思います。では、それらが進んでくることに対して、図書館や出版社はどのようなアプローチを取ることが可能なのかという問題意識があります。

私の大学の図書館の場合、本を買って、それを受け入れてデータを登録して管理する、それを貸し出して、返却してもらう、データベースが電子的に利用できる状況を整える、あるいは、リポジトリのように先生が書いた紀要論文や雑誌論文、博士論文などを登録していくという、一つ一つのルーチンに落とし込まれた仕事は非常に整っています。その一方で、人員はどんどん削減され、予算も削減されます。そういう状況の中で、その整ったルーチンを必死になって維持するというだけでは付いていけないところが多分どんどん出てきます。

では、どうするのかということに対して、答えはまだありません。しかし、もう学術情報ということを図書館や出版社などの固まりで、スタティックなもので考えるのではなくて、その中で何が起きているのかをダイナミックに感じたい、それに関わる人たちみんなできちんと対話をして、これからどんなふうにしたいかという話を始めたい。今日がそんな場所になればいいと思っています。今日ご登壇いただく方々は、オープン世代の研究者です。領域を超えた研究活動、日本初のオープンアクセスジャーナルの出版、あるいは若手アカデミーという形で若手の研究者の横のつながりを大きくつくっていきこうという活動を通して、今、現実にどういう形で知の共有が行われて外に出るようになるかについて考える機会になればと思っています。

今日の SPARC Japan セミナーの企画は、本日司会をお願いしている近畿大学の榎木先生、後半のパネルディスカッションのモデレーターをお願いする佐藤先生と共に立ち上げました。3人とも関西でしたので、集まってお話をしたときにこのテーマが立ち上がり、社会全体の中で研究するということについてもう少し大きく捉えようということで大変盛り上がり、今回の企画となった次第です。後半のモデレーターもはじけると宣言されていますので、講師の皆さまのお話を頂いて、さらに皆さまにとってもエキサイティングで刺激的なときになればよいと思っています。今日はどうぞよろしく願いいたします。